

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 18 日

評価対象事業		評価者	環境保全課長 牧野 直樹	
環境-13	実施事業	公害等対策事業	自治事務	主管課 環境保全課
			法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	生活環境	施策の方針	環境汚染の防止

1 事業の目的

対象	市民及び事業者等
意図	事業活動やその他の人の活動による公害の発生を抑制するため。
効果	事業所等を対象に法令等に基づく届出や立入り調査により未然に公害を防止し、周辺地域の環境保全を推進する。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・騒音規制法、「振動規制法」、「悪臭防止法」、「特定工場における公害防止組織の整備に関する法律」による届出の受理等及び指導を行った。 ・事業所等から発生する公害を防止するため指導や助言を行った。 ・鎌倉市環境の状況についての調査及び情報の提供に関する要綱に基づく環境保全、公害防止のための調査・測定・分析を行った。 ・深夜花火特別対策区域に警備員を配置し、巡回警備の充実を図った。 ・生活排水による公共水域の水質汚濁を防止するため、下水道認可区域外の地域での合併処理浄化槽の設置を推進した。 ・「水道法」及び「小規模水道及び小規模貯水槽水道に関する条例」に基づく届出受理、立入検査等による水道衛生対策を行った。
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)決算		データ区分	02年度(2020年度)当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数		人 口	世 帯 数	
運営資源状況	人 口	176,308人	176,436人	人 口	176,608人	・各年3月31日(住民基本台帳)		
	世 帯 数	81,763世帯	82,444世帯	世 帯 数	83,058世帯			
	事業の対象者数			事業の対象者数				
	決算値(千円)	8,962	6,438	当初予算(千円)	5,060			
	国県支出金	271	524	国県支出金	574			
	地方債			地方債				
	その他			その他				
事業経費	一般財源	8,691	5,914	一般財源	4,486			
	人員配置数	2.5	2.5	人員配置数	2.5			
	会計年度任用職員配置数			会計年度任用職員配置数	1.0			
人件費(千円)	19,279	20,401	人件費(千円)	21,367				
総事業費(千円)	28,241	26,839	総事業費(千円)	26,427				
市民1人当りの経費(円)	160	152	市民1人当りの経費(円)	150				
対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)					

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	9. 実施が義務付けられており(法定受託事務等)、今後も市が実施する必要がある
有 効 性	事業の成果は得られているか	9. 実施が義務付けられており(法定受託事務等)、成果を計ることはなじまない
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
		△-9. 実施が義務付けられており(法定受託事務等)、協働はなじまない
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す → <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他	見直しの内容	
	事業内容・予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	法令等に基づく事業所からの許可申請等届出事務や指導などが法定受託事務である。市民の騒音や振動、臭気等への関心の高まりにより、相談等が増加する傾向にある。法令等の規制対象外の相談事業も含め、現地確認や環境調査を行い、現状を把握する必要がある。そのため、それに対応する業務の縮小は難しく、公害関係に関する事務の維持継続が求められる。	

総評(評価に対する考え方、根拠等)	・事業所から発生する騒音や臭気等の他、個人宅における野焼きによる煙は、感じ方に個人差が大きく、その対応にはこれまででも苦慮してきた。環境に対する意識の高まりから、近年、市に寄せられるそれらの相談や苦情が増える傾向にある。現組織体制でどこまで対応できるかなど課題もあるが、市民の様々なニーズに対応するためにも今後もきめ細かい対応が求められる。
-------------------	--

令和元年度(2019年度)事業実施にあつた課題(前年度未解決の事項を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 事業所から発生する騒音や臭気等について測定値が規制基準を遵守されていても、感じ方には個人差があり、事業者への指導と苦情者への説明において大きな隔たりが生じ、苦情者の理解が得られない場合がある。 河川の白濁など(水質事故)については、市民等からの通報を受けて、被害防止等の対応を行っているが、発生源の特定が困難な場合がある。特に暗渠となっている河川(主に雨水幹線)は、その経路を把握するにあたり、下水道河川課職員の同行も必要となり、多くの人手と時間を要する。 発生源者である事業者等が特定されても、法令等に基づく規制基準の遵守や公共水域へ汚濁物質が流れ込む影響に関する当事者の認識が低く、その対応に苦慮している。 	
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	<ul style="list-style-type: none"> 騒音、振動、臭気等の苦情や水質事故等があった場合は、緊急出動するなど迅速に現場対応を行い、状況を把握したうえで、関係課に協力を求め、発生源の事業者に対して適切な対応をするように指導した。事業者が規制基準を遵守している場合には、近隣へのさらなる配慮を要請した。 	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	<ul style="list-style-type: none"> 騒音や臭気等について、発生源の事業者が規制基準を遵守していても市民から苦情が寄せられる場合がある。その状況の改善のためには多額の費用を要することが多く、その対応に苦慮している。 水質事故については、迅速な対応に努めているが、多くの場合、すでに痕跡がなく発生源の特定に至らない場合が多い。 	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名								
他市実績								

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	公害苦情処理率(苦情件数に対して解決した割合)					単位	%	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
公害苦情処理の実績と、その解決件数を明確にすることにより事業の効果を測るため	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
	実績値	24/40(件)	20/40(件)	44/56(件)	26/30(件)	41/53(件)	29/47(件)			
	達成率	60.0%	50.0%	78.6%	86.7%	77.4%	61.7%			

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	<p>公害苦情の事案は、個人宅における解体工事など短期間の騒音や一過性の野焼きによる臭気の場合と、その他事業所から継続的に発生する騒音や臭気など様々である。</p> <p>短期間の工事や一過性の臭気は、比較的解決に至りやすい場合が多い。しかし、事業所から発生する継続的な騒音や臭気は、規制基準を遵守していても苦情が寄せられることがあり、事業所に対しては指導ではなく要請に留まる。この場合、事業所も対応に費用がかかることから早期の解決が難しく、その状況により解決率に変動が生じている。</p>
-----------------------	---